

第1章 計画策定の背景と目的

1.1. 当初計画の背景・目的

吉野ヶ里町は、佐賀県の東部に位置する町で、北部は脊振山地からなる山岳地形、南部は佐賀平野による平地が広がる南北に伸びた町域を有している。吉野ヶ里遺跡をはじめとする貴重な歴史・文化資源が存在しながら、生活面においても西には佐賀市、東には鳥栖市、久留米市が隣接するなど生活利便性の高い環境となっている。

近年、全国的な少子高齢化により、本町の人口将来推計においても人口減少・高齢化率の上昇の傾向が見られるようになってきている。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全国的な外出控えによる公共交通の利用者の減少、国内・海外を問わない観光客の減少、公共交通事業者の乗務員不足などにより、町内の移動を担っていた交通事業者の撤退や、コミュニティ交通の利用低迷など、町内の公共交通は厳しい状況に立たされている。

本町では、平成28年3月に「吉野ヶ里町地域公共交通網形成計画」を策定し、コミュニティバス路線の再編と、町内全域をカバーする予約制デマンド型乗合タクシー「吉野ヶ里町デマンドタクシー」の運行を開始し、利用促進策として免許返納者や小学生以下の利用には運賃免除や割引の助成制度の導入を行った。

計画策定から6年を経て、町内の公共交通については依然厳しい状況にあるものの、世界的に行われているワクチン接種に伴うコロナ禍の収束の兆しや、テレワークなどの新しい生活様式の増加が見られるようになり、今後の町民の生活を支えるための地域公共交通の見直しが必要になると考えられる。

そのため、地域公共交通のこれまでの取り組みを踏まえながら、吉野ヶ里町の地域公共交通をとりまく問題点に対応するため、令和2年に改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「吉野ヶ里町地域公共交通計画」を策定し、持続可能で利用しやすい公共交通網の再構築を図ることとする。